

美祢市立病院の病床機能再編について

1 病床機能再編の趣旨について

(1) 地域における担うべき役割

○ 今後の医療需要見込み

宇部・小野田保健医療圏の中でも、美祢市は、高齢化の進展等により高齢者の医療需要が増加する一方、総人口は減少傾向であり、2025年に向けて、市の医療需要全体としてはほぼ横ばいで推移すると推測している。

○ 当院の役割

市内で一般病床・療養病床を有している病院は、当院と美祢市立美東病院のみである。特に高齢者にとってアクセスの良い身近な病院として、急性期・回復期・慢性期医療の提供や在宅医療の支援等、多様な機能をもつことにより、美祢市の医療需要に柔軟に対応することが、当院の担うべき役割と考える。

(2) 今後の目指すべき病床機能等

今後、当院の役割を果たすためには、病床機能の再編が必要であり、市外の高度急性期病院や市内開業医、介護福祉施設等と連携し、急性期医療から回復期医療・慢性期医療までの入院医療の提供や総合診療科医師を中心とした在宅療養支援病院として地域密着・ケアミックス型の機能を維持していく。

【具体的施策】

- ① 高度急性期病院等への紹介患者を受け入れるポストアキュート機能の強化
- ② 在宅療養患者・施設入所者急変時に受け入れるサブアキュート機能の強化
- ③ 地域で安心して医療を受けたいと考えておられる慢性期患者の受け入れ機能の充実
- ④ 市民の在宅療養の需要に応えた訪問診療等在宅医療機能の充実

(3) 課題

- 通常の診療や救急患者の受入れに加え、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症患者の受入体制の確保
- 医師及び看護職員の確保
- 将来的に持続可能な安定した運営資金の確保
- 医療DXの推進

(4) 病床機能再編理由

今後さらに厳しい状況が見込まれる中、限られた医師・看護師等の医療資源を最大限効率的に活用し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、計画に先立ち2024年7月に療養病床（慢性期）5床を削減し、同年10月に一般病床15床を回復期病床へ転換した。

このたび、常勤医師が異動等により減少することを受け、受入入院患者数を考慮し、一般病床数の削減を行い、当院の機能を適正化していく。

また、このたびの病床削減は、一般病床において、医療需要を考慮しながら、新興感染症患者受入時を含め、より質の高い医療提供体制（看護体制）を維持できる範囲内において行うものであり、また、令和6年3月に策定した「美祢市病院経営強化プラン」における経営指標の範囲内での削減であるため、医療の受入体制及びプラン遂行には影響が生じないもの

と考えている。
 なお今後は、後方支援施設等との連携をさらに強化し、対応することを考えている。

2 機能ごとの病床のあり方について

上記1のとおり、限られた医師・看護師等の医療資源を最大限効率的に活用し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、下記のとおりプランを改定する。

- 現状のプラン（現在の機能別病床数と同じ）
 急性期病床81床のうち、45床を回復期病床に転換（2024年10月転換済）
 慢性期病床45床のうち、5床を削減（2024年7月削減済）
- 今回の改定
 上記に加えて、急性期病床を6床削減

■現在の機能別病床数

区分	病床数	内訳
一般	81床	急性期 36
		回復期 45
療養	40床	慢性期 40
計	121床	

2025 プラン（R7.4改定）

病床数	内訳
81床	急性期 36
	回復期 45
40床	慢性期 40
121床	

2025 プラン（今回改定）

病床数	内訳
75床	急性期 30
	回復期 45
40床	慢性期 40
115床	▲6床

3 今後のスケジュール

2025年4月	病床削減（一般病床：6床）
---------	---------------